



肥満とエネルギー収支に関する研究、 並びに地域の健康づくりに関する研究

人間文化学部 健康科学科

助教 佐野 尚美 (さの なおみ)

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1441 号室
Tel 082-251-9551 Fax 082-251-9405
E-mail sano@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 基礎栄養 臨床栄養 健康科学

キーワード： 肥満 生活習慣病 健康づくり 食物アレルギー

●研究内容

(1) 体重増加は摂取エネルギーの増大（過食）と消費エネルギーの減少（運動不足）によると考えられており、食事と運動のバランスを考慮した健康づくりが重要です。エネルギー収支を念頭に卵巣摘除によって活動量が低下したラットを用い、卵巣摘除および食餌組成の違いが、摂取エネルギー、自発的運動量、体重、内蔵脂肪量等へ及ぼす影響の検討を行っています。

(2) 広島県江田島市と協働し、「えたじま健康・長寿の町づくり事業」を進めています。江田島市において生活・食・運動習慣、健康意識などを調査し、健康に関する現状と課題の分析を行います。また、江田島市民の方々を対象とした健康に関する講演会や健康教室の開催を行います。

(3) アレルギー疾患のうち、食物アレルギーの発症頻度は0歳から1歳において最も多く、乳児の健康危害防止のため、ベビーフードに含まれるアレルギー物質についての情報提供は特に重要です。ベビーフードの製品包装に記載されている食物アレルギー物質に係る表示を調査し、その動向と問題点を解析しています。

●期待される成果と応用

(1) 肥満は生活習慣病の発症リスクを高めることが明らかになっており、肥満対策は予防医学上重要な課題とされています。食餌組成の違いや活動量の低下が摂取エネルギー、体重、内蔵脂肪量などに及ぼす影響が明らかになることにより、有効な肥満対策の開発につながると考えています。

(2) 江田島市の地域特性に応じた事業を展開することにより、子供からお年寄りまで家族全員の健康づくりに対する意識が高まることが期待されます。特定検診の受診率や特定保健指導の実施率を上げ、結果的に健康増進、医療費削減に寄与することができると考えています。本事業の内容や成果は、江田島市だけでなく他の自治体の健康づくり事業に応用することも可能です。

(3) アレルギー患者及びその家族の安全な食品選択のためには、消費者がアレルギー情報を正しく得ることが可能な表示が望まれます。他の表示から独立し、全ての製品で統一のアレルギー表示が実現すれば、食物アレルギー患者及び家族の身体的・精神的負担を軽減することができると考えられます。

●想定される連携先

- ① 地方自治体
- ② 地域住民とその団体
- ③ 地域の学校や教育機関